

かの参考になれば幸いである。

〔引用文献〕 千葉 茂, 堀 健治, 小川 章, 永田義明, 坂本 武: 西マレーシアにおける王子・マレーシア試験造林地 (OMP) 現地調査報告書, 海外林業コンサルタント協会, pp. 182, 1984年3月 (本報告書に引用文献 45点記載)

新刊紹介

◎熱帯植物要覧 熱帯植物研究会編 (執筆: 岩佐俊吉, 木方洋二, 北野至亮, 佐々木尚友, 鈴木健敬, 原 敬造), B6変形判, 734 pp. (本文 568 pp. 索引 165 pp.), 社団法人大日本山林会, 昭和59年8月25日発行, 価4,500円 (10部以上まとると一割引)

子供の頃, 果物屋の店先に並んでいたバナナから想像するしかなかった遠い熱帯の植物が, 現在では, われわれの日常生活の中に, どっかりと座り込んでいる。その代表は南洋材を始めとする熱帯材で, 厳密に種を区別出来るとしたら, 1000種にはなっているだろう。植木屋の店先の見馴れない片仮名名前の花, 観葉植物, デパートのショーケースの中の冷蔵した果物, ラタン製品等々, 一体, われわれの身の回りにどの位の熱帯植物が存在するのだろうか。しかも, その数は, 年々着実に増加しており, 多分本書の著者達が, 当初“もしかしたら”あるいは“まさか”と思って取り上げた種がすでに店先に座っている可能性も十分ある位である。

ところが, これらの熱帯植物の正体は何かということになると, ごく一部の専門家を除いては, あやふやなことが多い。これだけ, 熱帯植物と縁が深くなって来ているのに, 総括的に知識を与えてくれ, かつ, つねに拠り所となる著書がなかったことは, 不思議なことである。このことは, 熱帯関連の専門家の仕事の上で, また, 日常生活の中での熱帯植物資源に対する理解の上で大きな弱点になっていた筈である。

この“熱帯植物要覧”は“南洋植物要覧”の復刊への要望が契機となって企画されたものであるが, そうでなくとも, ずっと以前に発刊されて欲しかったものである。その内容は, 後者に比較して, 遙かに豊富で, 優れたものになっている。3000種にわたる植物についての記載は, 林木, 薬用植物, 果樹, 作物などについて必要なものは網羅しているといつてよい。

熱帯に関係する研究あるいは事業, とくに農林関係の, に従事する人々にとっては, 正に座右の書とすべき好著である。さらに, 熱帯植物の愛好家にとっても, またとないガイドブックであることは言を俟たない。(須藤彰司)

●お知らせ 熱帯農業研究センターが編集, 旧熱帯林業協会が刊行した「熱帯の有
用樹種」(A5版, 666 pp, 昭和53年2月刊, 定価6,500円送料込)の残部があります。本年4月以降は大日本山林会(電話 03-587-2551)で取扱っていますので, ご希望の方は同会にお問合わせ下さい。